会津漆のくに web プロジェクト

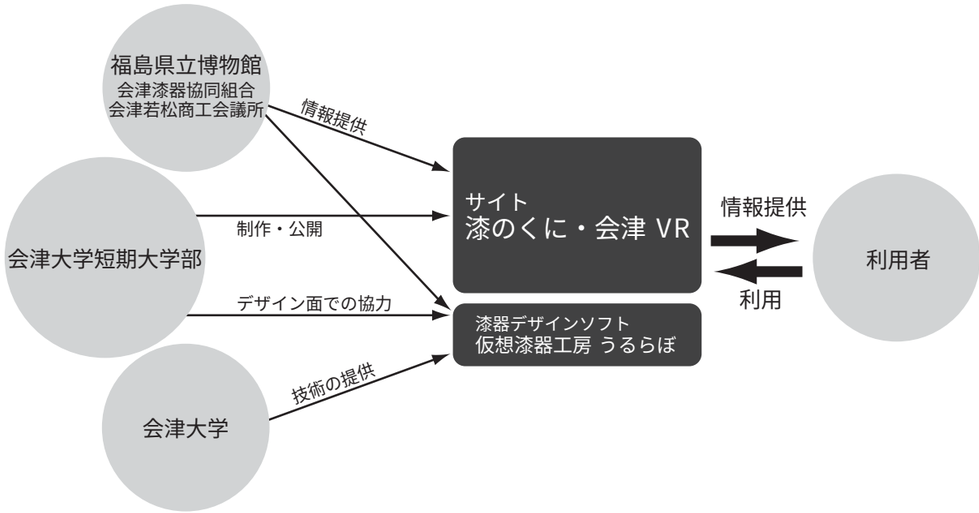
A2200805 今井晴香　A2200814 斎藤涼子　A2200828 松本愛子
A2200830 村田麻美　A2200833 結城千浩

【研究目的】

会津は漆液の産地であるとともに漆器産地であるが、近年その産業自体の低迷が見られている。そこで、素材としての漆の多様性と漆器の魅力を子どもたちに伝え、産地としての誇りを失いかけている地域の人々に再認識の機会を設け、広く人々に漆に触れ・感じ・知ってもらう場を提供することを目的とする福島県立博物館主催のプロジェクト「＜漆のくに・会津＞プロジェクト」に関わり、漆について調査・体験する。

そして会津漆についての知識を得た上で会津の漆文化を伝えるためのサイトを制作・公開する。私たちの記録・体験を通して、漆のことを知ってもらえるようなサイトを制作することが目的である。

＜漆のくに･会津＞プロジェクト実行委員会



【制作過程】

１．博物館の方々との会議（2009/07/15）

漆のくに・会津＞プロジェクトやサイトの方針について話し合う。

２．第１回ワークショップ「私の漆を育てよう」へ参加（2009/08/01）

第１回ワークショップに参加し、下草刈りと漆掻きの見学・体験をした。私たちは今まで漆器は見たことはあっても、その元となる漆の木は見たことがなかった。

下草刈り…初めての見た漆の木は、3 年前に植栽されたものでまだ小さかった。15 年程で漆液が採取出来るようになるが、漆の木が育つには日当たりと水はけの良い土地が必要で、立地が悪いところでは育たない。この土地では 3 年前に 300 本植えて、現在残ってるのが 248 本。漆液を採る段階ではもっと少なく、全国平均で 100 本中 10 本（10%）ほどだそうだ。

漆掻き…漆掻き職人の谷口吏さんに漆掻きの説明をして頂きながら、作業を見ることが出来た。漆掻きは傷の付け方や位置で樹液の量が変わる。人と同じで木にもそれぞれ特徴があるので、その木にあった傷の入れ方をする。職人の経験と感覚がものを言う作業だと思った。

１本の木から採れる漆液の量は 200 ミリリットルほど。

この日、漆の木を育てる難しさと漆液の貴重さを知った。

３．サイト制作開始 (2009/09 ～)

役割をデザイン担当、サーバー担当、コラボレーションページ担当、コンテンツ担当の４つに分け、それぞれ制作を開始した。

デザインコンセプト
初めは、漆＝漆器のイメージが強かったため、赤・黒・白の３色を用いてデザインをした。控えめで上品な印象にし、会津漆器の良さを伝えられるようにした。また、和のイメージもあったため、縦書きのメニューを取り入れて強調した。

初期デザイン案

４.＜漆のくに・会津＞プロジェクト実行委員会の会議（2009/11/05）

福島県立博物館にてプレゼンテーションを行い、進捗状況を報告した。

意見
「” 漆 ” のサイトではなく、” 会津の漆 ” のサイトだと分かるようなデザインを」
「硬くなりすぎて普通のサイト、もっと学生らしくのびのびとやってほしい」
⇒**サイト構成とデザインを見直すことにした。**

５．第２回ワークショップ「私の漆を育てよう」植栽体験（2009/11/15）

第２回ワークショップに参加し、植栽体験をした。植え方を教わりながら、苗木を 100 本ほど植えた。ワークショップ中､「漆に関する仕事は職業に出来るか？」という質問が上がった。それに対し、「職業的に漆をとるのは難しい。出来るが困難は伴うと思う」という職人さんの返答に、この業界の厳しさを感じた。私たちが植えた苗から、良い漆液が出るようになったら嬉しい。

６．シンポジウムに参加（2009/11/21）

「漆の力～産地の現状とこれから～」に参加した。文化資源を利用したまちづくりについての話や、会津･津軽の産業技術研究者の方々が漆を広げるために行った事業、漆芸作家からみた漆など、様々な立場の人の意見や取り組みを知ることが出来た。

７．作り直し開始 (11 月下旬～ 12 月中旬)

実行委員会で得たアドバイスや意見を元に、サイトの方向性を見直した。

自分たちがやりたいこととプロジェクトの方向性をもう一度考え直した。
⇒**漆器のイメージに拘らず、“ 漆 ” に関わるもの全体のイメージを表現したほうが良いのでは？**

８．職人さんへの取材（2009/12/03）

木地職人の大塚隆さん、蒔絵師の大内泰次さんの仕事場へ伺いインタビューをした。

細かい作業に驚いたのはもちろんだが、手作業だから出せる個性があることに気づいた。職人さんの作るものは芸術で、生で見ると迫力が違った。大量生産の廉価な漆器がたくさん出回っているが、こういったすばらしい作品をもっと多くの人に見てもらいたいと強く思った。

９．ブログ公開（2009/12/16）

一般公開に向けて、福島県立博物館のサイトのトップにリンクを繋いだ。

【最終成果物】
サイト　漆のくに・会津 VR

以前の反省を踏まえた結果、
「漆のくに・会津」というプロジェクト名を元に、漆器の中に会津をイメージした一つの国を作った。
また初めは赤や黒といった漆器や和のイメージが強かったが、漆掻きや植林の体験を通して自然の中の漆に関ったことにより、イメージカラーが緑や茶色といった自然の色に変わった。
そして幅広い年齢層、特に漆のことをよく知らない若い人たちに見てもらいたいという思いから、デザインをかわいらしく親しみやすいものに仕上げた。

サイト構成

プロジェクト概要

プロジェクトの概要を説明する

トップページ

インタビュー

職人さんを取材し、画像や映像を交えて紹介する

漆について

漆の基礎知識を紹介する

イベント

漆のくに・会津プロジェクトのイベント情報の掲載とイベントレポートの作成を行う

漆マップ

漆に関連する場所をマップで紹介する

ブログ

メンバー 5 人が漆について感じたことや学んだことをブログ上にてそれぞれ投稿していく

考察
初期デザインで強く出ていた漆器の色を減らし、緑や茶色を多く取り入れたナチュラルな雰囲気にした。また、会津の地形を取り入れてデザインした。
プロジェクトのイメージをお椀のくにに見立てることで、見た人にプロジェクトを覚えてもらいやすいようにした。

2009年度 卒業研究ゼミ発表要旨集

ソフト　仮想漆器工房 うるらぼ

以前の反省を踏まえた結果
このデザインソフトは漆のくに・会津 VR のサイトの方とリンクするのでサイトの方と統一感を持たせるため赤や黒を主体としたデザインを変更し、全体的に淡い色合いに仕上げた。また 12 月上旬にソフトのタイトルが仮想漆器工房うるらぼに決まり、親しみやすいように意識してタイトルロゴを作成した。

TOP

会津漆器についての紹介を軽く載せ、ここで作るのか見るのかを選択する

新着ページ

新着順に並べたページ。画像をクリックすると詳しい説明のページへ行く。

ランキングページ

投票によるランキング順に並べたページ。画像をクリックすると詳しい説明のページへ行く。

詳細ページ

製作者の詳細があり、作者に対しコメントを書いたり投票することができる。

デザインページ

型を選んだ後にこのページで色づけしたり模様を貼り付けることができる。

【まとめ】
最初は漆について分からないままサイトを作っていたため漆器やプロジェクトのサイトという堅いイメージが先行してしまった。しかし、ワークショップや職人さんへの取材を行っていくうちに、漆器になるまでの自然の中で成長する過程と、その成長に関わる人がたくさん存在することを知って、漆器という形以外のものが見えてきた。
そして、その流れを初めの頃の私たちのような漆について知らない人に、伝えられるようなサイトを作りたいと思った。

そのための手法として、文章は学生目線や口調で書くことを重視した。その時のことをわかりやすく素直に伝えられるようにした。デザインも、幅広い年齢層に受け入れられるようかわいらしく親しみやすいものに仕上げた。

グループ研究ということで、サイトを制作していく際の作業分担はきちんと割り振りスムーズに進めることができたが、取材時などの役割分担をうまく割り振ることができずインタビューやレポート、ブログを書く際に資料が不足してしまった。

当初の目的である ” 漆について知らない人に、伝えられるようなサイト ” は制作出来たが、これから公開予定なので利用者の反応を見ることが出来ない。これから公開し、その反応を見てまた検討していきたい。